

<口腔の役割>

牛の角

草食動物の牛は肉食獣に比べて気弱でおとなしいため、外敵から身を守り、そして威嚇する目的に、その多くは角を備えています。その他、野生や放牧の牛は渇水期にはこの角や足を使って地面を掘り起こし、飲水やミネラルを補給します。牛同士の餌の取り合いは日常茶飯事であり、角が威力を発揮します。

ところで牝牛には角があり、牝牛には角がない、そしてホルスタインなどの乳牛にも角がないというイメージがありますが、実は元々、これらのメスにも角があったのです。飼牛の多くは小さな子牛の時期に角切り（除角：じょかく）をされているため、角がないイメージが定着しています。

角切りは爪切りとは違い、角には神経や血管が通っているため、痛みを伴います。角があることで飼育する人がけがをしたり、牛同士で角の大きさで強弱関係が決まってしまうたり、傷つけあったり、弱い牛は十分な飼料を食べれなかったり、そのような理由で角切りが必要になるそうです。

この角切り、牛にとってマイナスだったエピソードがあります。2006年の鹿児島集中豪雨では数千頭規模の肥育牛のセンターが水没し、数十頭の肥育牛が犠牲になったそうです。猫の口ひげのごとく、牛の角も自分の体幅を図るための尺度としており、角切りされた牛は逃げ出せる柵の幅の感覚がわからず、後ずさりする知恵が無いいため、首が挟まったまま水没してしまったのだそうです（参考）。

牛にとっては感覚器の一つである角、人に置き換えれば「歯」がそれにあたります。摂食と咀嚼（そしゃく）を行い食感を識別し、大昔には武器であったであろうこの歯にも神経や血管が通っています。進行した虫歯ではやむを得ず神経を取り除く治療（抜髄：ばつずい）をすることがありますが、角切り同様、痛みを伴うため、麻酔をします。抜髄した歯はしっかり管理しないと健康な天然の歯に比べて弱くなり、歯の寿命を縮めてしまうことがあります。

人のために自身の大切な角を無くし、食肉や牛乳を提供してくれる牛の恩恵にあらためて感謝したいと思います。

今年は「丑年」。「牛」は古来より耕牛として大変な農業を最後まで地道に手伝ってくれることから、丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前触れ（芽が出る）」の年になると言われています。1973年のオイルショックも丑年でしたが、今年も新型コロナウイルスの蔓延で、まだしばらく耐え忍ぶことになりそうですが、この地道な生活こそが新たな発展へと繋がるのかも知れません。



願掛撫で牛（桐生天満宮）

（参考）牛コラム 肥育牛とおいしい牛肉のはなし

<https://blog.goo.ne.jp/kuroiusi/e/8d97eafc7a94b677cc91cbb54ebc35e7>

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

